

作成日 2019/02/28  
改訂日

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名	男前モノタロウ 超極圧潤滑スプレー塩素フリー
会社名	株式会社MonotaRO
所在地	〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名	商品お問合せ窓口
電話番号	0120-443-509
FAX番号	0120-289-888
整理番号	M190228

### 2. 危険有害性の要約 GHS分類

物理化学的危険性	エアゾール 区分1
健康有害性	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) 区分4 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2B 生殖細胞変異原性 区分2 発がん性 区分1A 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(心臓 肺)  特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用)  特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(肺 皮膚)  上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

### GHSラベル要素

#### 絵表示



#### 注意喚起語 危険有害性情報

危険  
H222 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール  
H229 高压容器:熱すると破裂のおそれ  
H320 眼刺激  
H332 吸入すると有害  
H336 眠気又はめまいのおそれ  
H341 遺伝性疾患のおそれの疑い  
H350 発がんのおそれ  
H371 心臓、肺の障害のおそれ  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による肺、皮膚の障害

#### 注意書き 安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)  
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。(P211)  
使用後を含め、穴をあけたり燃したりしないこと。(P251)  
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)  
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)  
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)

応急措置	<p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)</p> <p>屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)</p> <p>保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)</p> <p>吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)</p> <p>気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)</p> <p>眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)</p>
保管	<p>容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)</p> <p>施錠して保管すること。(P405)</p> <p>日光から遮断し、50°C以上の温度にばく露しないこと。(P410+P412)</p>
廃棄	<p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)</p>

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
合成油、添加剤、鉱油	30.0%	不明	不明	不明	不明
プロパン	20.0～30.0%	不明	不明	既存	不明
ブタン	40.0～50.0%	不明	不明	既存	不明

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪いときは、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚を速やかに洗浄すること。  
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。  
汚染された衣類を脱ぐこと。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合

水で15分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
必要に応じて医師の処置をうけること。

最も重要な徴候及び症状  
に関する簡潔な情報

飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。  
眼に入ると炎症を起こす可能性がある。  
皮膚に触れると炎症、凍傷を起こす可能性がある。  
吸入すると気道に刺激を感じ気分が悪くなること  
がある。

## 5. 火災時の措置

消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂類。

使ってはならない消火剤

棒状注水、水噴霧、火災を拡大し危険な場合がある。

特有の危険有害性

極めて引火性の高い液体及び蒸気。  
高温により容器が破裂する恐れがある。  
火災によって刺激臭、腐食性又は毒性ガスを発生す  
る恐れがある。

特有の消火方法

火災発生周辺への関係者以外の立ち入りを禁止す  
る。  
安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
消火のための注水は、燃焼を拡大する恐れがあるた  
め行ってはならない。  
水は人間を保護するための噴霧、延焼防止の冷却を  
消火作業の際には風上から行い有害なガスを吸い込  
まないように適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を  
着用する。

消火を行う者の保護

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置

暴露防止のため保護具を着用して作業を行ない、蒸  
気の吸入や皮膚への接触を防止する。風上に留ま  
る。低地から離れる。  
漏出した場所周辺への関係者以外の立ち入りを禁止  
する。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川、下水道等に排出されないよう  
に注意する。  
本製品を含む廃水の公共用水域への排出又は地下  
浸透を防止するため、本製品がこぼれた床面などを  
水で洗い流してはならない。

除去方法

少量の場合は、まず着火源を排除し、ウエス、おがく  
ず、吸着マット、乾燥砂等に吸収させて密閉できる空  
容器に回収する。大量の場合は、盛土で囲って流出  
を防止し、安全な場所に導いて回収する。引火や爆  
発を誘発しないよう、着火源、加熱源を排除し、直ち  
に換気、回収処置をする。空容器等で回収後、法規  
に従い処置する。

二次災害の防止策

全ての着火源、高温体及び付近の可燃物を速やかに  
取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。着火し  
た場合に備えて、適切な消火器を準備する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

**取扱い**

換気のよい場所で取り扱う。  
 炎や火気の近くで使用しない。  
 火気を使用している室内で大量に使用しない。火の中に入れない。  
 保護眼鏡や保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を避ける。  
 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性のものを用いる。  
 ミスト、蒸気、スプレーの吸入をさけること。  
 みだりに蒸気、ミスト、スプレーを発生させないこと。  
 常温で取り扱うものとし、水分、異物の混入をさけること。  
 混触禁止物(強酸化剤)と接触しないように注意す

**保管**

日光の直射をさける。  
 風通しの良い所に保管する。  
 火気、熱源から遠ざけて保管する。  
 40℃以上のところで保管しないこと。  
 水回りや湿度の高いところに保管すると、容器腐食して破裂の恐れがあるので保管場所に注意すること。  
 混触禁止物(強酸化剤)との接触並びに同一場所での保管をさける。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
ブタン	未設定	500ppm(1200mg/m <sup>3</sup> )	TWA -, STEL 1000 ppm (EX)
プロパン	未設定	未設定	TWA See Appendix F: Minimal Oxygen Content (D, EX), STEL See Appendix F: Minimal Oxygen Content (D, EX)
合成油、添加剤、鉱油	未設定	未設定	未設定

**設備対策**

局所排気装置を設置する。静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。使用中は火気厳禁の措置をする。

**保護具**

呼吸器の保護具  
 手の保護具  
 適切な呼吸器保護具を着用すること。  
 接触する可能性のある場合には、耐油性の適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具  
 適切な眼の保護具を着用すること(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)。

皮膚及び身体の保護具  
 長期間にわたり取扱う場合又は付着する可能性のある場合には、耐油性の長袖作業衣等を着用すること。

適切な衛生対策  
 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

**外観**

物理的状態  
 形状  
 色  
 エアゾール  
 液体  
 データなし  
 データなし

**臭い**

臭い  
 データなし

臭いのしきい(閾)値		データなし
pH		データなし
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし
引火点		224°C(@COC) 噴射剤-104.4~-73.8°C
蒸発速度		データなし
燃焼性(固体、気体)		データなし
燃焼又は爆発範囲	下限 上限	データなし データなし
蒸気圧		内容液:極めて小さい。 噴射剤:0.39MPa(20° )
蒸気密度		データなし
比重(密度)		内容液:1.111(15°C) 噴射剤:0.55(20°C)
溶解度		内容液:不溶性、水に不溶。 噴射剤:水に微溶
n-オクタノール／水分配係数		データなし
自然発火温度		データなし
分解温度		データなし
粘度(粘性率)		データなし
動粘性率		201.4000mm <sup>2</sup> /S(40°C)
その他		流動点 (JIS K2269): -25.0°C以下 動粘度 (JIS K2283): 201.4mm <sup>2</sup> /s at 40°C 動粘度 (JIS K2283): 24.34mm <sup>2</sup> /s at 100°C 粘度指数(JIS K2283): 150 銅板腐食(JIS K2513): 1a(砲金等メタルへの腐食性無し) アニリン点(JIS K2256): 100.7°C(樹脂・ゴム部材への影響無し) 塩素分(全)(JPI-5S-64): <1ppm(塩素非含有) ファレックス耐荷重能(ASTM D3233): 2500Lbs以上
		シェル4球融着荷重(ASTM D2783): 500kg、4900N超え融着無し 曾田式4球試験耐荷重値(JIS K2519): 20.0kg/cm <sup>2</sup> 以上 摩擦係数(振子式II型摩擦試験/50°C): 0.088
10. 安定性及び反応性		
反応性		強酸化剤と接触すると反応する場合がある。水との反応性はない。
化学的安定性		法規制に従った保管及び通常の手扱いにおいては安定。
危険有害反応可能性		情報なし
避けるべき条件		燃焼により煙、一酸化炭素や亜硫酸ガスを生成する可能性がある。
混触危険物質		強酸化剤
危険有害な分解生成物		燃焼により煙、一酸化炭素や亜硫酸ガスを生成する可能性がある。
11. 有害性情報		
急性毒性	経口	急性毒性推定値が5000mg/kg超のため区分外に該当。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。

	経皮	急性毒性推定値が5000mg/kg超のため区分外に該当。
	吸入	毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。 (気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気) データ不足のため分類できない。 (粉じん・ミスト) 急性毒性推定値が1.5mg/lのため区分4に該当。 10×(区分1+1A+1B+1C)+区分2+区分3の成分合計が30%のため、区分3に該当。 JIS Z 7252に採用されていないため区分3から区分外に変更。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		眼区分2Bの成分合計が30%のため、区分2Bに該当。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	(呼吸器感作性)	
		データ不足のため分類できない。 (皮膚感作性) 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。
生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性		区分2の成分が30%のため、区分2に該当。 区分1Aの成分が30%のため、区分1Aに該当。 (生殖毒性) データ不足のため分類できない。 (生殖毒性・授乳影響) データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		区分2(心臓)の成分が20%のため、区分2(心臓)に該当。 区分2(肺)の成分が30%のため、区分2(肺)に該当。 区分3(麻酔作用)の成分合計が70%のため、区分3(麻酔作用)に該当。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		区分1(肺)の成分が30%のため、区分1(肺)に該当。
吸引性呼吸器有害性		区分1(皮膚)の成分が30%のため、区分1(皮膚)に該当。 動粘性率が201.4mm <sup>2</sup> /s(40°C)のため、区分外に該当。 毒性未知成分を考慮濃度(10%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。
12. 環境影響情報		
水生環境有害性(急性)		(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分外に該当。 毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。
水生環境有害性(長期間)		(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分外に該当。 毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。
オゾン層への有害性		データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意  
 残余廃棄物

事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合にはそこに委託して処理する。  
 投棄禁止。  
 埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなくてはならない。  
 焼却処理する場合は、一酸化炭素や亜硫酸ガス等の発生に注意しながら、スクラバーを備えた焼却炉で少量ずつ完全に焼却する。  
 「10.安定性及び反応性」の項等参照。

汚染容器及び包装

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。  
 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

14. 輸送上の注意  
 国際規制

海上規制情報  
 IMOの規定に従う。  
 UN No. 1950  
 Proper Shipping Name エアゾール  
 Class 2.1  
 Packing Group -  
 Marine Pollutant Not applicable  
 Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code. Not applicable

航空規制情報  
 ICAO/IATAの規定に従う。  
 UN No. 1950  
 Proper Shipping Name エアゾール  
 Class 2.1  
 Packing Group -  
 陸上規制 非該当  
 海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。  
 国連番号 1950  
 品名 エアゾール  
 クラス 2.1  
 容器等級 -  
 海洋汚染物質 非該当  
 MARPOL 73/78 附属書II 及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質 非該当

国内規制

航空規制情報  
 航空法の規定に従う。  
 国連番号 1950  
 品名 エアゾール  
 クラス 2.1  
 等級 -

緊急時応急措置指針番号

126

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 危険物・可燃性のガス(施行令別表第1第5号) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
	ブタン(政令番号:482)(30%-40%) 鉱油(政令番号:168)(20%-30%)
消防法	第4類 引火性液体 第四石油類
大気汚染防止法	揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)
海洋汚染防止法	油性混合物(施行規則第2条の2) 有害液体物質(X類物質)・油性混合物(施行令別表第1第1号イ(81))
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	高圧ガス(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	高圧ガス(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	その他の危険物・高圧ガス(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
道路法	車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)
労働基準法	がん原性化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第7号)
16. その他の情報	
参考文献	製造元メーカー提供資料 NITE GHS分類結果一覧 JIS Z 7252 GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) 経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 日本ケミカルデータベース(株)SDS作成システム「ezSDS」により作成。
その他	危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。